

大刀洗町『自分ごと化会議』 ～私たちが考える治水デザイン～

それは、未来をつくれるか。



「自分ごと化会議」とは

2023年11月25日
構想日本 総括ディレクター
伊藤 伸

自己紹介

伊藤 伸

- 1978年北海道本別町生まれ。
- 2000年8月 衆議院議員秘書（京都事務所勤務）
□ 当時は同志社大学4年生。
- 2004年2月 参議院議員秘書（国会事務所）と構想日本の兼職
□ 8時から17時が秘書、17時から21時が構想日本（翌年4月から構想日本の常勤）
- 2009年10月 内閣府行政刷新会議事務局参事官（史上最年少参事官）
□ 任期付の常勤国家公務員。いわゆる政治任用。事業仕分けなど行政改革全般を担当。
- 2013年2月 内閣府退職、構想日本総括ディレクター。
- 2013年9月～2020年 法政大学非常勤講師（「NPO論」）
- 2015年7月～ NPO法人「NPOサポートセンター」理事
- 2018年4月～ 法政大学大学院非常勤講師
- 2020年10月～2022年8月 内閣府政策参与（規制改革、行政改革、ワクチン担当。
2021年9月まで河野太郎大臣付、2021年1月～9月、2022年
1月～3月ワクチン担当併任）
- 2022年8月～ デジタル庁参与（河野太郎大臣付）
- 2023年10月～ 内閣官房デジタル行財政改革会議事務局政策参与 併任

【審議会等】

外務省「ODAに関する有識者懇談会」会長、内閣官房行政改革推進会議「歳出改革WG」委員、館山市行財政改革委員会委員長、京都府与謝野町行政改革推進委員会会長 など。

市民と行政、現場と制度、国と地方、官と民などをコーディネートする活動

住民参加型(行政への住民参加)の手法

これまで

公募方式

広報紙等で募集し、町民からの応募によって決める方法。

<特徴>

意識の高い人の声を聞くことができる一方で、利害関係者が手を挙げたり、参加者が特定の人に固定化する傾向。

推薦・一本釣り方式

団体からの推薦や首長の一本釣りで決める方法。

<特徴>

専門性の高い人や地域の有力者を選ぶことができる一方、毎回団体の長を選ぶことによる形骸化や参加者の固定化などの課題あり。

これから

公募方式

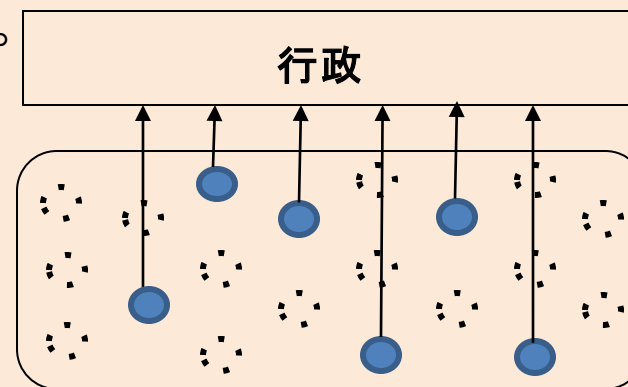
推薦・一本釣り方式

無作為抽出方式

無作為で抽出した町民に案内を送付し、その中の希望者が行政の取組みに参加する方法。

<特徴>

行政と接点の少なかった人、参加を躊躇していた人など、広範な町民の参加を望める。



参加手法を一つ追加するだけで、住民と行政の距離が大きく近づくことが期待できる。

自分ごと化会議とは①

【目的】

- 身近な問題を政治・行政任せにせず、住民自らが自分事として町の状況を知り意見を出し合う。
- 行政の取組について具体的に考え、課題解決を目指す。



【基本的な考え方】

(1) 参加する住民の選び方が無作為抽出

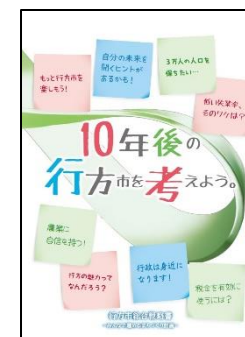
- 住民基本台帳や選挙人名簿から、無作為に抽出した住民に案内を送付し、応募のあった人が参加者として参加する。

(2) 地域の課題について、生活から見える現象をもとに住民間で議論

- 進め方のシナリオは一切作らない。参加する住民の発言から論点が生まれ議論を発展させていく。
- 行政への批判だけではなく、提案するための議論になるよう、外部の人間がコーディネーターを務める。

(3) 「個人でできること」「地域でできること」から考える

- 行政や各種団体への要望に終始するのではなく、課題解決のためにまずは自分たちでできることから考える。
- 「言いつぱなし」で終わらないように、参加者は具体的な課題とその



住民の生活実感が議論の入口
「何をすべきか」ではなく「自分はどうか」の議論

改善提案シート

第 分科会

名前:

あなたが考える現状の課題

その課題を解決する方法

<例> 公園が利用されていない	(住民の役割) ・個人として 知らない公園が多いので把握する ・地域として 草刈りなど、公園整備のサポートをする 休憩用のベンチを提供する
	(行政の役割) まちの中にある遊び場のマップを作成する
	(その他)

あなたが考える現状の課題

その課題を解決する方法

議論をする中で参加委員が考えた現状の課題を記載。

(ここに議論の中で参加委員が考えた現状の課題を記載する)	(住民の役割) ・個人としてできること ・地域としてできること	自助
	(行政の役割)	
	(その他)	公助
	(ここに記入)	(ここに記入)

その課題を解決するにあたり、個人、地域、行政それぞれの役割を記載。

参加者の役割

① 住民協議会委員（無作為に選ばれた住民）

今回のテーマである「わたしたちの健康づくり」について、現状を把握したうえで普段の生活から感じることなどをもとに住民間で議論する。

② コーディネーター（進行役・構想日本が選定）

議論の進行役および論点整理、必要に応じて論点の提示、事実関係の確認などを行う。

③ ナビゲーター（外部の視点からの論点提示役・外部有識者） ※第2回、3回に参加予定

議論を行う際の論点提示役。専門的視点からの意見や視点の提供を行う。

④ 行政担当職員

テーマ関連課（建設課）が、行政の取組みの現状やその目的などについて説明。
また、委員やコーディネーター、ナビゲーターからの質問への対応。

⑤ 事務局（総務課）

全体の進捗管理、構想日本との連絡調整。

大刀洗町は住民協議会発祥の地。既に全国モデルとなっている。

大刀洗町住民協議会のおおまかな流れ

無作為に抽出した住民に会議参加のご案内

- 住民基本台帳から500人（18歳～；行政関係者を除く489人）を抽出し、案内を送付。
参加希望者から23人、近隣高等学校から推薦のあった町内在住の生徒3人の合計26人を選任して委員となる。

<第1回> 本日

自分ごと化会議の趣旨説明
テーマの現状把握(把握)

- 会議の目的、進め方の説明
- 流域治水の現状説明
- 自己紹介および流域治水(大雨対策等)に関して日常生活で感じていることを議論する。

【目標】

テーマに関する町の現状や、参加者の問題意識などを共有する。

<第2回>

テーマについての議論
(発散)

- 委員が日常生活で感じる課題やその改善策などを議論する。
- 議論した内容を最終的に「改善提案シート」に記入する。

【目標】

多様な論点を出す(集約はしない)

<第3回>

テーマについての議論
(発散)

- 第2回の議論をとりまとめたものも参考にしながら、委員が日常生活で感じる課題やその改善策などを議論する。
- 議論した内容を最終的に「改善提案シート」に記入する。

【目標】

多様な論点を出す(集約はしない)

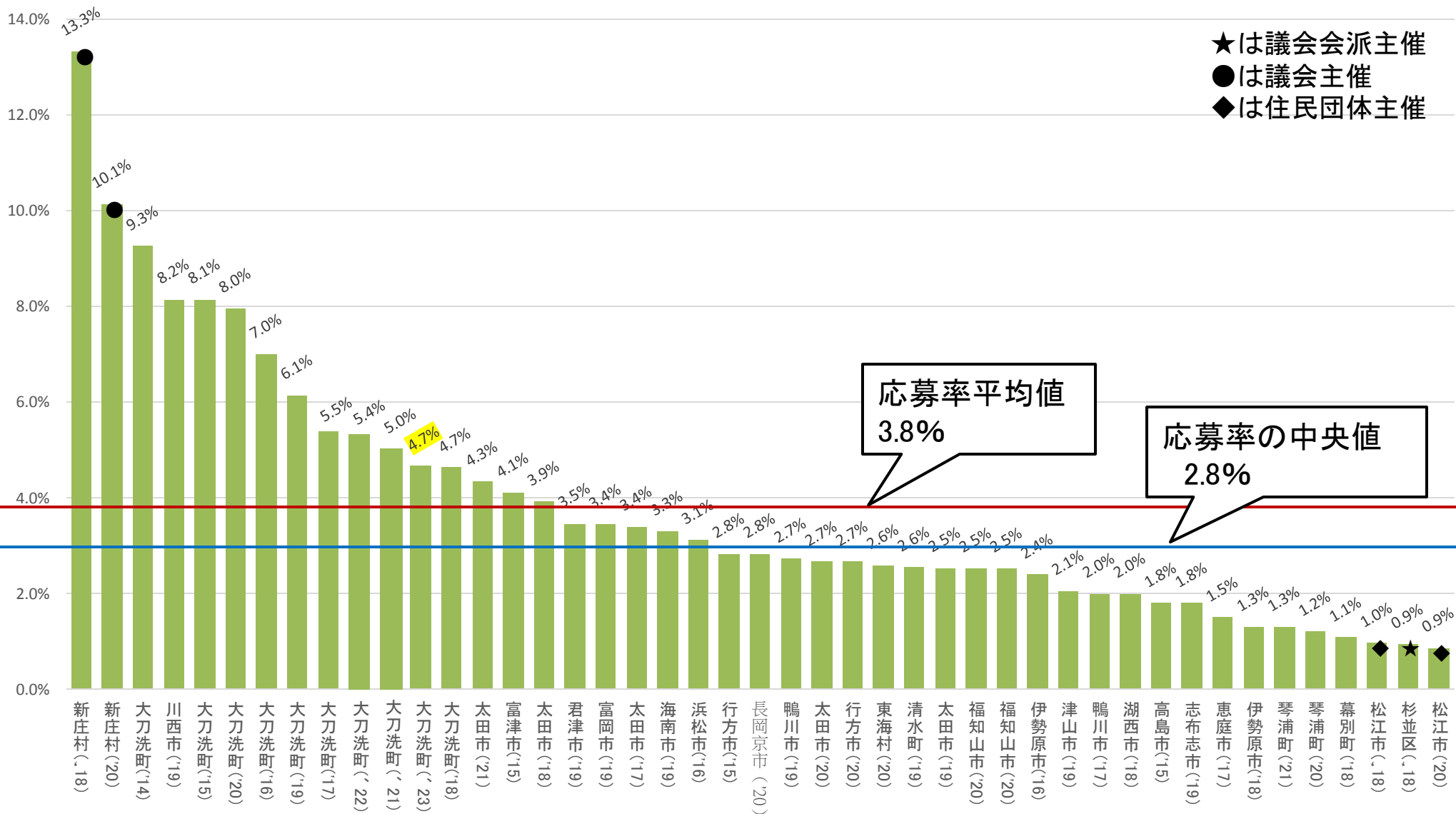
<第4回> 会議としての意見のとりまとめ(集約)

- これまでの議論を「提案書案」として整理し、さらに議論を深めて集約につなげる。
- これらをまとめたものが会議としての「提案書」となる。

【目標】 会議として共有できる内容を決める

※1班体制(各回約3時間想定)

住民協議会の応募率



自治体によって応募率の差が大きい。大刀洗町は、4.7%。

自分ごと化会議の主な実績

総合計画、総合戦略

総合計画	2015年度	滋賀県高島市
総合戦略	2015年度	茨城県行方市
総合戦略	2015年度	千葉県富津市
総合戦略	2015年度	香川県三木町
第2次総合戦略	2019年度	兵庫県川西市
総合計画	2019年度	北海道清水町
総合計画	2020年度	千葉県鴨川市
第2次総合戦略	2020年度	茨城県行方市
総合計画	2020年度	京都府福知山市

公共施設

コミュニティ施設	2016年度	神奈川県伊勢原市
学校跡地活用	2018年度	千葉県鴨川市
駅前再整備	2018年度	神奈川県伊勢原市
市民会館の建替	2018年度	静岡県湖西市
庁舎建設	2018年度	岡山県新庄村 ※2
公共施設個別計画	2019年度	千葉県君津市
市民プール	2019年度	岡山県津山市
コミュニティ施設	2019年度	和歌山県海南市
公園	2020年度	福岡県大刀洗町
新嵐山スカイパーク	2022年度	北海道芽室町

健康、福祉、子育て

地域包括ケア	2014年度	福岡県大刀洗町
子育て支援	2015年度	福岡県大刀洗町
健康づくり	2017年度	群馬県太田市
子育て環境	2018年度	東京都杉並区 ※2
子どもの遊び場	2019年度	群馬県富岡市
健康づくり	2019年度	福岡県大刀洗町
介護・高齢者福祉	2020年度	岡山県新庄村 ※2

※1: 住民団体主催、※2: 議会・会派主催

市民と行政の協働、条例検討

地域自治団体と行政	2014年度	福岡県大刀洗町
自治振興条例	2020年度	京都府長岡京市
地域づくり推進・協働条例	2020年度	群馬県富岡市

エネルギー

原発	2018年度	島根県松江市 ※1
原発問題	2020年度	茨城県東海村
自然エネルギー	2020年度	島根県松江市 ※1

ごみ問題

ごみ行政	2014年度	福岡県大刀洗町
ごみ問題	2017年度	北海道恵庭市 ※2
ごみ減量	2018年度	群馬県太田市
ごみ減量	2021年度	鳥取県琴浦町
ごみ減量	2021年度	福岡県大刀洗町

その他

防災	2016年度	福岡県大刀洗町
防災	2017年度	福岡県大刀洗町
防災	2016年度	静岡県浜松市(内閣府)
オリンピックの町	2018年度	北海道幕別町
暮らしの中の鉄道	2018年度	福岡県大刀洗町
関係人口	2019年度	鹿児島県志布志市
情報共有	2019年度	群馬県太田市
公共交通	2020年度	鳥取県琴浦町
働きやすい街	2020年度	群馬県太田市
地域コミュニティ	2021年度	群馬県太田市
防災	2022年度	群馬県太田市
防災、コミュニティ	2022年度	群馬県富岡市
公共交通、コミュニティ	2022年度	奈良県奈良市
歴史ある住宅の活用	2022年度	福岡県大刀洗町

これまでの大刀洗町住民協議会

年度ごとの「テーマ」と「ナビゲーター」 ※所属は、【開催年度】当時のもの

▼2016年度

○「防災」

河野太郎（衆議院議員、元防災担当大臣）
山中光茂（医師、前三重県松阪市長）
左木学（広島県三原市小坂町防災会会長）
辻本陽琢（内閣府（防災担当）参事官補佐）

▼2017年度

○「防災（第2弾）」

堀洋信（茨城県常総市保健福祉部健康保険課課長）
福嶋浩彦（中央学院大学教授、元我孫子市長、元消費者庁長官）

▼2018年度

○「暮らしの中の鉄道」

大野達（国土交通省航空局ネットワーク部企画課長）
真鍋康正（ことでんグループ代表、
高松琴平電気鉄道（株）取締役社長）

▼2019年度

○「わたしたちの健康づくり」

熊谷哲（（公財）笹川スポーツ財団研究主幹／福知山市特別参与）
唐戸直樹（熊本県健康福祉部長寿社会局高齢者支援課長）

▼2020年度

○「大刀洗公園の今後をどうする？ゼロから考えてみよう！」

宮崎 稔氏（学校と地域の融合教育研究会 会長）

▼2021年度

⑧「ごみを減らすために私たちにできること」

・櫛田豊久氏（アマタホールディングス
経営戦略補佐 KOUプロジェクトマネージャー）
・廣木俊二氏（ふれあいセンターセンター長）
・吉川昇氏（ふれあいセンター
MEGURUSTATIONボランティアスタッフ）

▼2022年度

⑦「歴史ある住宅と城跡の未来」

・北島力氏（NPO法人まちづくりネット八女）
・片岡宏二氏（小郡市埋蔵文化財調査センター所長）

開催年度	送付数	応募者数(応募率)	参加者数
2016年度	500枚	35名(7.0%), 4人高校生(公募)	39人
2017年度	500枚	27人(5.4%), 2人高校生(公募)	28人(1名辞退)
2018年度	494枚	23人(4.7%), 2人高校生(公募)	19人 (選任;1名辞退)
2019年度	488枚	29人(5.9%), 4人高校生(公募)	27人(選任)
2020年度	490枚	39人(8.0%)	27人(選任)
2021年度	478枚	24人(5.0%)	24人(選任)
2022年度	488枚	27人(5.5%)	27人(選任)

過去の住民協議会に参加した「OB・OG」は293名に。

住民協議会での議論のその後①(OB・OG会)

「住民協議会OB・OG会」の発足(2017年)

- 住民協議会への参加で高まった意識を、何かしらの形で継続したいという思いから発足(これまで住民協議会委員を経験した人は293名※)。※2022年度末時点



- 「OB・OG会」主催して、「若者と政治」をテーマにした勉強会を開催(2018年2月)。町議会議員にも声をかけた。
 - 住民グループが議会を「招待」という、これまでには見られなかった構図。



メディアでもたびたび取り上げられ、全国的にも注目される取組みになっている。



参加意向調査や名簿作成、会合の案内作成などすべてを住民が実施。
「住民自治」の最先端。

住民協議会での議論のその後②(事例)

ゴミ問題

- 不燃ごみの袋が大きく、しかも10枚セットで販売されているため、使い切れない、もっと小さくできないかという意見が多数。

販売事業者と交渉し、小さい袋(10枚組)を新たに販売(協議会での議論の数か月後の変更)。

地域包括ケア

- もともと、町内の3カ所程度で行っていた健康体操教室。遠くて行きにくい、もっと地域の取組みとした方が地域全体として考えることができるのではないかという意見。

行政区単位で実施する方針に変更。行政区と相談しながら随時教室の実施場所を増やす取組み。

暮らしの中の鉄道

- 役場の前にある駅を利用する際、事前申請すれば役場の駐車場に無料で止めて電車に乗ることができる制度があったが、ほとんどの人は知らなかった。
- 定期利用を想定して事前申請を必要としていたため、週末にふらっと出掛けようとするときには利用できないという意見も多く出た。

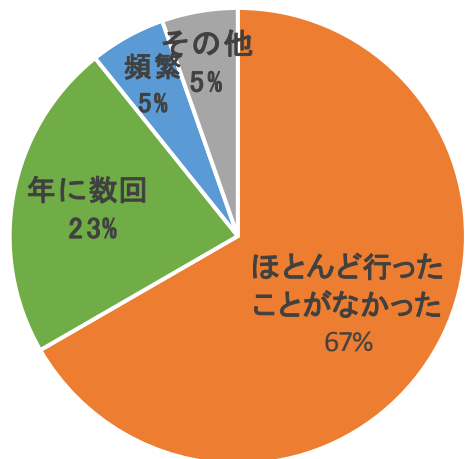
定期利用以外の駐車枠を設けて、空いていればいつでも役場駐車場を使えるように変更。(住民協議会の答申を待たずに変更された。)

【参考】大刀洗町住民協議会委員へのアンケート結果

住民協議会参加以前の大刀洗町役場との関わり

<主なコメント>

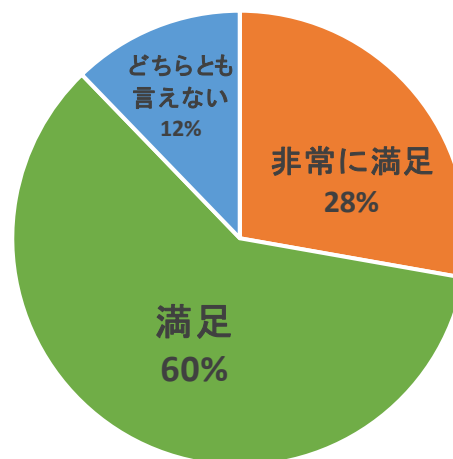
- ・ 自分が役場に用事がある時だけ行く
- ・ 福祉サービスの手続きや相談のときに役場に行く
- ・ 仕事の関係で役場に行く程度



住民協議会への評価

<主なコメント>

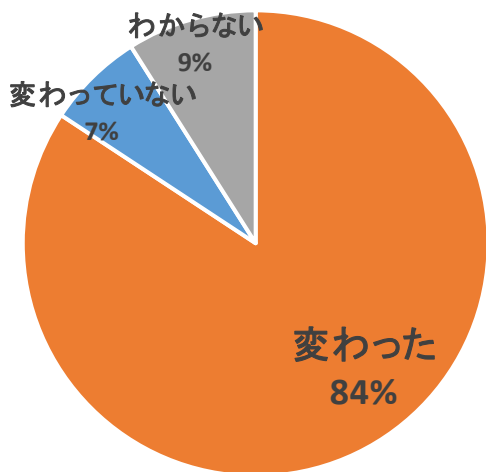
- ・ 私が勤めている会社は、作る側・売る側がテーブルを挟んで議論するということが行われている。そしてお客様の為にどの様にしたらいいのか、会社としてどうすればいいのかを考え行動している。住民協議会も通じることが沢山ある。本当に良い取り組みだと思う。
- ・ 大刀洗町役場の人は勉強熱心で成長しようという意識が高いと感じた。一昔前の役場と変わったように思う。
- ・ 自分のこととして考えることの大切さ、重要性をひしひしと感じた。今のことだけ考えがちだった自分に気づいた。



参加したことによる意識の変化

<主なコメント>

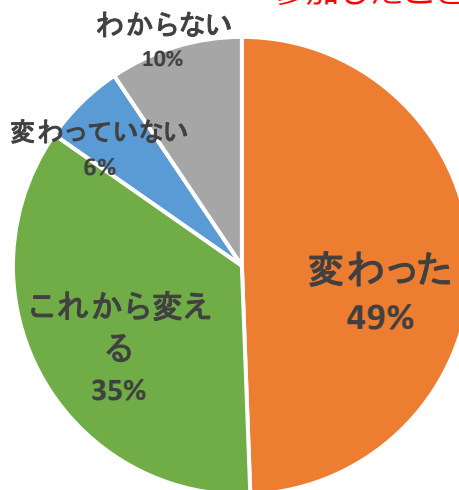
- ・ 町が抱えている問題、また将来に向けた課題等をこの協議会を通じ幅広く知ることができた。
- ・ 協力出来ることは何かを考えるようになった。
- ・ ニュースや日常生活で考える視点が変わった。
- ・ 広報誌はしっかりチェックする。
- ・ 他人事から自分事、諦めない心から諦めずに向き合う心。
- ・ この協議会を継続して多くの町民が参加すれば大刀洗はさらに良くなると強く感じた。
- ・ 大刀洗もこれから楽しみだと思えるようになった。



参加したことによる行動の変化

<主なコメント>

- ・ 行事に参加する。
- ・ 町内外の方が集う場を作ってみたくなった。
- ・ 地域の活動や町の活動に参加するようになった。
- ・ 自分がイベントを企画しようと思う。
- ・ 行政任せに感えず、常に自分事として捉えて行動すれば「自分の思い描く町の姿も夢ではない」と感じる。行政が主催するイベント・事業にも積極的に関わりたい。



※2015年～2019年までの住民協議会に参加した委員が対象(対象者総数169名)

参加した住民からの評価は高く、意識や行動にも変化が生まれている。

大刀洗町での事業仕分け

	第1回	第2回
実施日	2010年12月4日(土)	2012年10月21日(日)
対象事業	14事業(2班体制)	7事業(1班体制)
参加者	コーディネーター: 構想日本事業仕分けチーム(各班1名) 仕分け人: 構想日本事業仕分けチーム(各班2名)、大刀洗町からの推薦(各班2名) 町民判定人: 大刀洗町民より無作為抽出で選出(各班10名ほど) 説明者: 大刀洗町職員	
特徴	傍聴者が多く(第1回: 約140名、第2回: 約120名)、職員の傍聴も多い(約100名の職員の半数近く)。 判定人、傍聴者、職員を合わせると、 約1万5000人の住民の約1%が仕分けの会場にいたことになる。	

	第3回	第4回
実施日	2014年11月16日(日)	2015年2月28日(日)
対象事業	2事業(1班体制)	
参加者	コーディネーター: 構想日本事業仕分けチーム(1名) 仕分け人: 構想日本事業仕分けチーム(2名)、住民仕分け人(3名) 住民判定人: (約40名) 説明者: 大刀洗町職員 ※住民仕分け人と住民判定人は、大刀洗町住民協議会委員から選出。	
特徴	住民協議会のテーマと仕分けの対象事業を連動させる。 ●第3回は、まず仕分けを行い出てきた論点を協議会で深掘り。 ●第4回は、協議会での生活者視点での議論を踏まえて仕分けでは客観的な数値を中心として議論。	

これからのまちづくりの基本的な考え方

いかに小さくして「質」を高めるか

- 町の規模
- 公共施設 など

財政的観点だけでなく、「住民のため」に規模を縮小することが大前提。

住民がいかに町のことを「自分ごと化」できるかがポイント

自分ごと化会議

多様な住民がしっかりと考え議論すれば、自ずと良い結論が導き出される。

私に関係ある？ ある！

自分ごと化会議の魅力を詰め込んだ一冊！

GIEGHI BOOKS

あなたも当たるかもしれない、
「くじ引き民主主義」の時代へ



伊藤伸

河野太郎氏推薦！

コロナワクチン接種の推進で、私の右腕を助けてくれたのが伊藤さんです。彼のおかげで1日160万回のワクチン接種が実現できました。この本には、常に現場に向き合って課題を解決しようとする伊藤さんの本質が詰まっています。現場と制度、国と地方、官と民、あらゆるものをコーディネートできるのは伊藤さんしかいません。 河野太郎



購入はこちらから！(Amazon HP)

(本書抜粋)

「まちづくりや政策のことを考える会議の参加者候補に、抽選で当たりましたのでこの会議にご参加ください」——このような手紙が市町村役場から届いたら皆さんはどう感じられるだろうか？ 実は、こうした会議が、いま全国各地で行われている。くじで選ばれた参加者の生活実感からくるふとした一言や素朴な疑問は、政治や行政の「当たり前」を軽々と超えていく。

貴族院議員だった上山満之進の「多数無名の常民こそが歴史を作る」という言葉に非常に共感する。無作為に選ばれた市民による対話は、あらゆる課題を解決に向かわせている。本書によって、「多数無名の常民」のパワーを世の中に広め、全国至るところで、そして国においても「自分ごと化会議」が行えるよう、引き続き邁進したい。